Vol.18

尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース

cover photo : Makoto KATOH

- message：石川智信副会長・土井勝幸副会長
- report：リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022
- event preview：第 46 回全国デイ・ケア研究大会 2023 in 八王子
- voice：活動と参加してみた！ 認定デイ・ケアマスターの声
- topics：在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース
- 会員施設紹介：介護老人保健施設クローバーヴィラ

一般社団法人全国デイ・ケア協会
Japan Association for Day Care

全国デイ・ケア協会　副会長
いしかわ内科　理事長
石川 智信

リハビリテーションの重要性と可能性

先日80歳台の方を自宅で見送った。娘２人と孫たちに囲まれての穏やかな旅立ちであった。以前彼の奥様を同じ自宅で看取らせていただいた。あれから17年、久しぶりに現れた彼はがんの末期であった。そして延命はいらない、妻同様に自宅で最後まで過ごしたいとの依頼であった。しかしADLの著しい低下は、がんの末期というよりも脱水の進行や廃用症候群が進んでの嚥下障害であり、歩行障害であった。遠方から介護で戻っていた娘さんたちの希望は、少しでも長く生きて欲しいとのことであった。まだ本当の意味でのがんの終末期ではないと判断した私は脱水の補正とともに訪問リハビリを導入した。すると再び食事を自ら口にし、排泄や入浴を自力でできるレベルに回復した。生気のなかった彼の目にも輝きが戻っていた。

いったんすべてを諦念していた彼とは対照的に、娘さんたちは別れに対する心の準備ができていなかった。そこで行った訪問リハビリは最後の別れを後悔なく行うことに、大いに寄与できたと思う。そして本人も自分の尊厳を最大限守ってくれたリハビリテーションの力に感謝されていた。

在宅医療を行う中で、最後まで自分らしく生きたいと願う患者さんに数多く出会う。しかし多くの終末期の患者さんにとって薬物療法は限られており、むしろ災いとなることも多い。そんな時実際に手を触れ、時間をかけて傾聴できるリハビリテーションの術は副作用がなく力強い治療手段になりうる。会員の皆様にはリハビリテーションの可能性を信じ、これからも利用者の方々を支える仲間であり続けていていただきたいと願う。

今年が皆様にとって幸い多き年になりますように。

介護老人保健施設併設の通所リハビリテーションを語ろう

全国デイ・ケア協会　副会長
介護老人保健施設せんだんの丘　施設長
土井 勝幸

介護保険がスタートして23年が過ぎようとしていますが、この間に通所リハの姿も変化をし、老健併設型が多かった時代から、医療機関併設型の事業所の方が多くなり、それと共に短時間サービスも増えました。また、活動と参加を踏まえた修了を目指すサービスのあり方が問われ、通所機能に加え訪問による指導の強化等、地域でのより綿密な連携も求められています。この間、通所介護は急激に増加しましたが、実際に提供しているサービスの差別化を踏まえた連携も大きな課題となっています。

少しトピックスを取り上げただけでも、通所リハを取り巻く環境変化は目を見張るものがあります。一方で、当会が示す通所リハの４つの普遍的機能（医学的管理・心身生活活動の維持向上・社会活動の維持向上・介護者等家族支援）はその役割を端的に表現しているものであると改めて認識する機会も増えました。

そのような中、私の中で今まで内に秘めていた“想い”があります。

私の所属する老健施設併設の通所リハでは、老健の持つ機能（入所、ショートステイ、通所・訪問リハ）をフルに生かした地域生活継続支援を行っています。

通所リハは、様々な居宅事業や地域資源との連携が重要ですが、一方で母体の持つ機能との連携が表現されることは少ないと感じていました。残念なことに、老健の通所リハはみなし事業にもかかわらず、併設率は約85%（R4.4）まで落ち込み、通所リハは閉鎖した等の施設が増えています。

今こそ、老健だから出来る、得意とする支援とは何か、そのことを老健併設の事業所の皆様方と語る場を作り、声を大にして情報発信してゆきたいと思っています。

知的好奇心は止まらない。止めてはいけない。

JADC研修会、新年度の予定を掲載。

当会では様々な研修会を企画しております。下記スケジュールをご確認の上、ご希望の研修会にお申し込みください。

JADC EVENT SCHEDULE

開催日		研修会	開催地・開催方法
2月	11日(土)	経営戦略セミナー	博多バスターミナル
3月	3日(金)～5日(日)	在宅リハEGコース④	オンライン開催
	11日(土)	第8回三団体合同研修会	
	18日(土)	第10回デイ・ケアスキルアップセミナー	
4月	15日(土)～16日(日)	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
5月	14日(日)	明日から使える!初めての通所リハ実践研修会	オンライン開催
	20日(土)～21日(日)	生活行為向上リハビリテーション研修会	
6月	10日(土)～11日(日)	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催

要注目

会員限定

ON DEMAND

会員向け無料教育セミナー定期配信中

全国デイ・ケア協会では、会員限定にオンデマンド配信による教育セミナーを開催しています。幅広い内容を揃えており、本セミナーが会員の皆様のお役に立てますと幸いです。

また、第８弾からは「見逃し配信」も実施しています。配信期間に視聴できなかった方、再度復習も兼ねて視聴したい方は、見逃し配信を是非ご活用ください。

会員向け無料教育セミナー　配信スケジュール

令和5年

- 1月配信　在宅医療におけるリハビリテーションの重要性と問題点
- 3月配信　地域リハビリテーション普及啓発活動　～地域への働きかけ～
- 5月配信　通所リハで役立つコミュニケーションスキル
- 7月配信　介護老人保健施設における通所リハの在り方

リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022

2022年（令和4年）9月30日（金）～10月1日（土）

ハイブリッド開催（現地開催&オンライン配信）

2022年9月30日（金）～ 10月1日（土）に北海道苫小牧市のグランドホテルニュー王子・苫小牧市民会館及び苫小牧市文化会館の3会場において『リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022』が開催された。withコロナの中ハイブリッドかつ分場開催と感染拡大予防対策が講じられた大会であった。

大会は橋本洋一大会長（社会医療法人平成醫塾苫小牧東病院院長）の大会長講演に始まり、浜村明徳顧問（小倉リハビリテーション病院名誉院長）や天野純子先生（医療法人ハートフルアマノリハビリテーション病院理事長）による基調講演や、主催6団体の各シンポジウムなど非常にボリュームがありリハ・ケアらしい多岐にわたる内容であった。

1日目は先述の大会長講演を皮切りに、運動器疾患や脳卒中患者に対する最新の治療・知見、高次脳機能障害への理解促進という専門性の高い講演や松木田瞭氏（厚生労働省保健局医療課）による診療報酬改定に関する講演など急性期～回復期よりの内容が多く行われた。2日目には緩和医療についての大会企画シンポジウムやCOVID-19患者のオンライン診療に関する講演など、在宅医療に関する内容が多かった。本大会のテーマである『覧古考新～古い事柄から学び、新たなリハケアを描こう～』に沿う、過去、現在、未来を俯瞰する素晴らしい講演、発表に感銘を受けることとなった。

当会主催シンポジウムも『LIFEの現状と未来』と題し、岡野英樹理事を座長に迎え、パネリストからLIFE導入に至る苦労や方法、LIFEの活用方法、今後の見通しについて、多くの意見交換が交わされた。

全体を通して地域包括ケアの構築が進む中、医療やリハビリテーション、ケアに特化した内容だけではなく、その人らしさを大切にするための方略を示す講演、シンポジウムが多かったように思う。

また、今大会はハイブリッド開催であった為、同時に聴講することができない講演や演題発表を後日聴講することが可能となった。対面開催のメリットとweb開催のメリットを包括したこの開催方式は、今後も学会開催のスタンダードなものになっていくのではないかと感じた。

2024年度の診療報酬・介護報酬の同時改定を来年に控え、常に自分の思考をアップデートしながら地域に住むその人らしさを大切にできるよう、改めて利用者様と真摯に向き合っていきたいと思う大会となった。

全国デイ・ケア協会 主催団体シンポジウムの報告
『LIFEの現状と未来』

昨今の医療分野では、オンライン資格確認や電子処方箋の導入をはじめとしたDX化の流れが急速となり、並行して「医療の質の可視化」も進められています。介護分野も同様に、先般、科学的介護情報システム「LIFE」（以下、LIFE）が導入され、自立支援・重度化防止の取り組みを推進するためのツールとして、その利活用に期待が寄せられていますが、導入・運用に際してのトラブルも多く、未だ着地点が見えず道半ばと言わざるを得ません。そのため今回は、全国の通所系事業所でLIFEを積極的に導入・活用いただくため、「LIFEの現状と未来」をテーマとしたシンポジウムを開催いたしました。

新田 惇一氏

まず、厚生労働省の新田惇一氏からは「LIFEに込められた思いやビジョン」として、科学的介護が推進されたことの背景とLIFEを解説いただき、加えて、その目指す姿や今後のスケジュールまでを詳しくお話しいただきました。続いて当会理事の野尻晋一氏からは、Society5.0への改革とLIFEとの関係から、自身の施設における多職種チームでのLIFEへの取り組みと、利用者に有益なフィードバックに向けた先駆的な取り組みをご報告いただきました。次に、当会研修認定委員長の藤本健氏からは、LIFEの導入前と導入後、そして適切な運用に向けた課題に対するさまざまな工夫についてご報告いただきました。最後に、日本介護支援専門員協会副会長の七種秀樹氏から「ケアマネジメントとLIFEの関係」として、介護事業所から提供されるフィードバック票の利活用と今後の課題についてご報告いただきました。いずれも、各事業所でのこれからの取り組みに、大いに参考になったのではないでしょうか。

岡野 英樹理事

全体ディスカッションでは、LIFEを導入する事業所を増やすための方策や、利活用したことでの効果、利活用とあわせて進めるべき業務改善などについて、各演者から大変参考となる意見をいただくことができ、LIFEに対するネガティブなイメージを払拭するための一助となったと思われます。

経済財政運営と改革の基本方針2022（骨太方針）では、「デジタルトランスフォーメーション（DX）への投資」として『医療・介護等にかかるデータ・プラットフォームの整備』が盛り込まれていることからも、これからの介護サービスにおいて、間違いなく「科学的介護」が一層推進され、施策や報酬の適正化を推し進める方向性ではあり、加えて、私たち介護サービス提供者がそのデータを有効に活用することで、さらなるサービスの質の向上につながる可能性を秘めていることが確認できたのではないでしょうか。

医療法人真正会　本部
全国デイ・ケア協会　理事
岡野 英樹

七種 秀樹氏　野尻 晋一氏　藤本 健氏

活動×参加

今回の活動と参加してみたには、リハ・ケア大会苫小牧、初めての通所リハ実践研修会にご参加された３名にご登場いただきました。様々な場で多くの発見や学びが感じられています。是非お三方の熱い想いをご一読ください。

活動と参加してみた！

@ リハビリテーション・ケア合同研究大会苫小牧2022

大会テーマは『覧古考新』であり、地域リハの歴史や地域共生社会の実現に向けた取り組みなど多くを学ぶことができる機会になりました。現地には想像以上に多くの方が参加しており、緊張感と高揚感が混ざった不思議な心境でした。私は今回の『リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧2022』が入職後初めての学会発表でした。発表形式はオンデマンド配信の為、事前にスライドに合わせて音声を録音することとなりました。機械的にならないように注意し、スライドのタイミングに合わせて読み上げる事など初めての経験でもあり苦戦しました。質疑応答はチャット形式のため、質問に対して内容を整理してから回答できたのは、ハイブリット開催の利点だと感じました。私自身の発表は、担当した方が地域でその人らしく過ごしていくための支援を行った事例報告でした。そのようなこともあり、様々な演題や講演を聴講させて頂き、改めて専門職と地域住民が繋がりを持って、一人ひとりが活躍できる地域づくりが必要であることを再認識しました。地域に出て働く専門職として、今回学んだことを日々の業務に活かし、通所リハの1スタッフとして、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるための架け橋になっていきたいです。

霞ヶ関南病院デイホスピタル
理学療法士 福田 佳菜

活動と参加してみた！

@「明日から使える！初めての通所リハ実践研修会」

今回「明日から使える！初めての通所リハ実践研修会」に参加させていただきました。そこで得た情報は、通所リハ初心者の私には初めて知ることばかりでした。私は、回復期病院で入院の方や外来の方を担当しながら、今年4月から当院内の短時間通所リハビリのSTとして働いています。日頃作成しているリハビリテーション計画書や会議録等の書類のこと、自分が実施していることがどのような加算を取っているのか知る機会にもなりました。また、デイケアの歴史や通所リハに求められる機能と役割をご説明いただき、多くのことを学ぶことができました。生活期におけるリハビリテーションは、利用者様の自己実現を可能にするため、通所内にとどまらず周囲の支援者ともっと活発に意見を交換し、地域全体で支援していく必要があると改めて感じました。まだまだ通所リハビリに携わっているSTは少ないため、STを必要としている利用者様がいることや、利用できる施設があることをもっと多くの人に情報発信すべきだと実感しています。STのリハビリでできることだけを考えるのでなく、支援者の一人として、私自身が常に広い視野を持って、これからも利用者の方々と接していきたいと思います。

多摩丘陵病院
言語聴覚士 北原 のり子

活動と参加してみた！

@「明日から使える！初めての通所リハ実践研修会」

今回の研修では「通所リハに求められる機能や役割」を学び、「回復期に特化したリハ専門病院に併設する外来と短時間通所リハの紹介」と「通所リハの加算」について解説して頂きました。

私自身が通所リハでのリハビリ業務に関わるようになって14年目ですが、リハビリ業務に関わる部分以外の通所リハの情報については認識が不十分な面がありました。法改正時の加算の解釈や書類管理等の業務調整やマニュアル作りに関わるようになり、通所リハ全体についての情報について学び直したいと考えていましたが、何を参考にして良いのか悩むところでした。そのため2003年から現在までの各法改正の主な視点の変化や、データを基にした全国的な通所リハの傾向を改めて知ることが出来て大変勉強になりました。

研修の後半では、短時間利用のみに対応している通所リハの全般的な業務内容について具体的に教えて頂きました。自施設の強みや良い点を分析し、独自性を出して効率的に運用されていることがとても参考になりました。また通所リハの各加算についても詳しく解説して頂き、自施設ですでに算定している加算についても、より深く理解することが出来ました。

今後もこのような研修に参加する機会がありましたら質疑応答にも挑戦し、今回学んだことを実際の業務に生かして、利用者様により良いサービスが提供できるようにしていきたいと思います。

老人保健施設瑞穂
理学療法士 森本 香織

TOPICS

EXPERT GENERALIST COURSE

在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース

令和４年度在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースも、残るところ第４クールのみとなりました。今年度もコロナ禍の状況を鑑み、全クールを完全オンライン形式としています。今回は通所リハビリテーション従事者に限らず、様々なサービス従事者の参加がございました。多種多様な意見交換がなされ、在宅リハビリテーションの深さや重要性を再認識しております。

さて、早くも令和５年度の開催についてお知らせする時期となりました。次年度についても、昨今の社会情勢や受講者の負担等を鑑み、オンライン形式を中心に、一部集合形式も取り入れながらの開催を企画しています。募集人数が限られており狭き門ではありますが、多くの方のお申込みを心よりお待ちしております。詳細は下記および当協会ホームページをご参照ください。

【令和5年度在宅リハEGコース日程】
①2023年　8月4日（金）～6日（日）
②2023年10月6日（金）～8日（日）
③2023年12月1日（金）～3日（日）
④2024年　3月1日（金）～3日（日）

【研修会場】 オンライン＋現地開催（第４クールのみ現地開催を予定）

【研修費用】 ¥120,000

【定　　員】 40名

【対　　象】
○全国デイ・ケア協会会員または日本訪問リハビリテーション協会会員で、以下の条件に当てはまる方
※会員が所属している法人職員も受講可能
◆施設長の推薦を得られる専門職で経験８年以上の方
◆医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・管理栄養士・歯科衛生士　のいずれかであること
◆すべてのプログラムにご参加できる方

【当協会ホームページ】 https://day-care.jp/kenshu-eg

家庭用常備薬等のあっせんをご利用ください

健康維持、セルフメディケーションをサポートします。
お客様のニーズにあった商品を豊富に取り揃えております。

株式会社 諒和
Ryowa Co.ltd
https://ryowa.website
〒535-0002 大阪市旭区大宮4-18-18 ☎06-6952-7015
（9:00～17:00土日祝除く）

事業内容：事業所向け医薬品、防疫薬品、医薬部外品、食品（健康食品・非常食）、健康関連用品、防災用品、日用雑貨、名入れ記念品等販売

全国の看護師さん介護士さんに愛用されています。
一日の終わりに脚が疲れていませんか？

履くだけで脚スッキリ♪リニューアルした
超美圧ソックスDXお試しください♪

第46回 全国デイ・ケア研究大会 2023 in 八王子

デイ・ケア 地産地消

地域で生み出す 街・人・想い を紡ぐ通いの場

2023年7月21日(金)～22日(土)

～その土地、その街、そしてその地域に暮らす人にとって、
思い出を紡ぐデイ・ケアであるために～

2023年7月21日（金）～ 22日（土）に「第46回全国デイ・ケア研究大会 2023 in 八王子」を東京都が誇る中核市、八王子市で開催いたします。会場の「東京たま未来メッセ」は2022年10月14日に開業したばかりの新しい施設です。この八王子の地で全国大会を開催することに、この上ない悦びを感じております。

新型コロナウイルス感染症は緩徐の傾向を見せつつも、医療・介護の領域においては多大な影響を及ぼす脅威であり続けています。世の中が失われた日常を取り戻しつつある状況に反して、デイ・ケアはじめ地域を支えるべきサービス・事業所にとっては、いまだ様々な制限下に置かれていると言わざるを得ません。その結果、長きにわたり地域で暮らすご利用者、ご家族に大変なご不便をおかけしていることに、心苦しい思いで業務にあたる毎日です。

その中で、いま自分たちができることは何か、地域に根付いた「通いの場」としてのデイ・ケアであるために取り組むべきことは何か、ということをぜひ皆さんと一緒に考え、共有したいと考えております。

会　場　**東京たま未来メッセ**
〒192-0046 東京都八王子市明神町 3−19−2

大会長　**安藤 高夫**（医療法人社団永生会 理事長）

実行委員長　**多良 淳二**（介護老人保健施設イマジン 事務長）

主　催　一般社団法人 全国デイ･ケア協会

主　管　医療法人社団永生会

プログラム（1日目）

- 開会式
- 大会長講演
- 会長講演
- 特別講演Ⅰ・Ⅱ
- 教育講演Ⅰ
- 演題発表（口述、ポスター）
- 特別セッション

プログラム（2日目）

- 特別講演Ⅲ
- 教育講演Ⅱ・Ⅲ
- シンポジウム
- 演題発表（口述、ポスター）
- 協会セッション
- 特別セッション
- 閉会式

※プログラム詳細は大会ホームページをご参照下さい

八王子市について

八王子市は東京都の西方約40kmに位置する人口約58万人の都市です。ミシュランガイドにも紹介された高尾山をはじめ緑豊かな土地で、歴史的文化財も多い由緒ある街です。また市内に21の大学のある学園都市でもあります。自然と文化の融合した美しい街を楽しんで下さい。

会場「東京たま未来メッセ」

【ウェブサイト】
https://www.tamaskc.metro.tokyo.lg.jp/

写真提供：多摩産業交流センター指定管理共同企業体

大会事務局：医療法人社団永生会　全国デイ・ケア研究大会2023 in 八王子事務局

住所：〒193-0832　東京都八王子市散田町3-9-15-202（法人本部 総務部内）
TEL：042-661-4155　FAX：042-662-7219
E-Mail：46daycare-hachioji@eisei.or.jp
担当：多良、武田
大会ホームページ：https://www.pac-mice.jp/46daycare/

認定デイ・ケアマスターの声

Master's Voice

藤上 優子（理学療法士）
介護老人保健施設 小川敬愛の杜

私は、今年で17年目の理学療法士です。通所リハビリテーションには13年従事しています。茨城空港がある茨城県小美玉市 介護老人保健施設 小川敬愛の杜（設立2015年）で働いております。主に通所リハビリテーション・施設入所リハビリテーションを中心に従事しています。認定デイ・ケアマスターの資格を知ったきっかけは、在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースの研修中に知りました。研修期間中は育児休暇中であり、研修が始まった月は娘を出産し生後3ヵ月の時でした。同居家族・義実家両親・実家両親と姉の協力の下、研修を最後まで受講する事ができました。令和4年5月に職場復帰となりました。初めての妊娠出産だったため、私の人生の分岐点です。

職場では、令和3年度から生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定をスタートし、各利用者様のご自宅訪問は週に1～2回行っています。自宅環境の評価、実際に行っているADL、ご本人様やご家族様のお話を聴取し、在宅生活が安全・安楽に過ごせる事やその人らしい生活が送れるような取り組みをしています。認定デイ・ケアマスターの取得を目指した事で、対象となる利用者様の問題となる環境の着眼点や本当に行いたい真の生活行為目標の抽出や会話からの引き出し方など自分自身の能力が上がったと思います。また、在宅リハビリテーションの知識を幅広く学び、日々の業務で実践し整理することができました。職場復帰では不安な気持ちを最小にでき、前向きに仕事に取り組む事が出来ました。オンライン研修だったからこそ、最後まで受講できました。全国デイ・ケア協会職員の皆様、講師の皆様、研修で一緒に参加した皆様と活発なディスカッションをした事は有意義であり、とても感謝しております。今後の展望として、職場が比較的新しい施設のため、地域の方から施設がどのように理解されているかを把握し、地域リハビリテーションの普及・啓発を促していくよう発信していきたいです。ご利用者様やご家族様の社会参加支援のために、地域のフォーマル・インフォーマルな制度も理解し調べ、活動・参加の選択肢を拡げていきたいと思います。

安全感染マニュアル
～送迎業務編～

安全感染対策委員会より

安全感染対策委員会は、当協会の新たな委員会として今年度より活動を開始しました。安全管理および感染対策には幅広い領域が含まれますが、当委員会では通所リハビリテーションに特有の課題から議論を始めています。その一つが、利用者の『送迎』という、各事業所に共通する日常業務です。

送迎業務には、利用者を転倒や事故なく運ぶための『安全管理』と、自宅と接点を持ち閉鎖空間で移動することに対する『感染対策』の両方の視点が必要です。全国の会員にご協力いただいたアンケート調査では、安全・感染に対するさまざまな取り組みや工夫がなされていることが分かりました。その一方で、事業所間あるいは地域間で対策の違いが大きいことが明らかになりました。各事業所の事情や地域性が大きく異なる中で、業務上の細かいルール作りは現実的ではありませんので、事例をまじえた実践的な情報発信を目指して、現在送迎マニュアルの作成を進めています。

今回のマニュアル作成を足がかりに、通所リハビリテーションにおける安全管理・感染対策について、会員の皆側と一緒に議論し検討を進めていきたいと考えています。

安全感染対策委員会

会員施設自己紹介

介護老人保健施設
クローバーヴィラ
〒251-0021 神奈川県藤沢市鵠沼神明3-1-1
URL http://clover-villa.jp/

神奈川県の湘南地区に位置する当通所リハビリテーションは、回復期リハ病院、介護老人保健施設、有料老人ホーム、在宅医療などを幅広く展開する医療法人篠原湘南クリニックを母体とし、「地域に密着した入院のできる在宅医療、医療のある介護の実践」を法人理念に掲げ地域の方々の在宅生活をサポートしています。

通所リハビリテーションでの取り組み

介護老人保健施設クローバーヴィラに併設する当通所リハビリテーションでは、1.リハビリに特化した運動機能向上プログラム 2.認知症リハビリプログラム 3.医療・重介護支援を3本柱とし、その方に適したコースを選定・提供しています。運動機能に特化したコースでは、メインプログラムとしてサーキット形式の集団リハビリを行っています。①歩行コーナー②いきいきエクササイズコーナー③マットコーナー④健口フレッシュコーナーの4コーナーから構成されており、午前と午後とコーナーを常設することで終日通して利用者様が主体的に運動に参加しやすい環境としました。内容は、ストレッチ、筋力強化などのベーシックトレーニングから歩行練習、日常生活動作練習、発声・発語練習まで身体機能を全般的に網羅し、計画・立案・運営すべてに専門職が携わり、利用者様の運動機会の確保と活動性の向上を目指し多職種協働で取り組んでいます。

認知症リハビリのコースは、パーソンセンタードケアの概念に基づき、全員一律のプログラム提供ではなく個々に適した活動内容の選定とその方らしい一日の過ごし方を提案することで、認知症の行動・心理症状の軽減と脳の活性化を図ることを目的としています。メインプログラムを①役割リハビリ②グループ回想法とし、役割リハビリは専門職が利用者様に適した作業活動（菜園活動、制作活動、家事動作など）を評価・選定し、その活動を役割リハビリとして提供後「褒める・認める・尊重する」の正フィードバックを行うことで脳の活性化を図っています。グループ回想法では、集団での他者との関わりの中で、共感や思いやり、信頼を得られることによる利用者様の自信の回復、脳の活性化を目的として実施しています。回想法に適した利用者様5人程度のグループを形成し、10種類の目的の違うテーマから約30分の回想と振り返りを行っています。いずれのコースにおいても「一人ひとりに合わせたケア」と「その方の想いと生活に寄り添う」ことを大切にし、利用者様にいきいきと笑顔溢れる時間を過ごしていただいております。

当通所リハビリテーションでは、生活行為向上リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。通所内での様子とは一味違い、目標に向かっていきいきと活動される姿に私たちスタッフも日々活力をいただいています。今後も一人ひとりの利用者様に合わせて、その方らしい生活を支援してまいります。

本コーナーにて「ぜひ私の施設を紹介したい！」という会員様は、事務局までご連絡をください。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は1994（平成6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設し、これまで活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にしてまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついては、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員特典

Join Us

● **当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能**

・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会　・主催研修会

※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

● **「デイケアニュース」の定期発送**

・年2～3回発行しております。

各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

● **制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能**

・原則、会員様のみご対応させていただいています。

● **会員ページの閲覧が可能**

・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
今後さらなるリニューアルを検討しています。

● **会員への定期的なメール配信**

・研修会案内

・制度関連情報　等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局

住所：〒101-0035　東京都千代田区神田紺屋町14番地　千代田寿ビル3階

TEL：03(5207)2710　FAX：03(5207)2711

E-mail：info@day-care.jp　URL：www.day-care.jp

編集後記

今年度、最後のデイケアニュースの発行となりました。当会では今年度も、研究大会や各種研修会の開催、調査研究事業、デイケアニュースの発行やホームページの刷新など、会員の皆様はもちろんのこと、会員以外の皆様にも協会やデイ・ケアをより知って頂けるよう、活動して参りました。デイケアニュースでは研究大会や研修会、発行時期に合わせたトピックスを掲載し、より多くの皆さんに現場の「熱」が伝わることを強く願って、企画を検討してきました。

さて、今号では、リハビリテーション・ケア合同研究大会の総括と参加者の声、更には、令和5年度の全国デイ・ケア研究大会のお知らせなどを掲載しております。是非、「熱」を感じて頂き、今後共、協会活動にご参加、ご協力頂ければと思います。よろしくお願い致します。

岩渕 隆俊（全国デイ・ケア協会　広報委員会）
介護老人保健施設せんだんの丘

デイケアニュース18号　2023年2月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会